

【熊本県PTA連合会賞】

「洋裁にかけた夢」を読んで
山鹿市立山鹿中学校 3年 松本 瑠子

私は小学生から中学生になった現在も松浦シズエ氏が開設した「ラ・モード」の近くを歩いて通学する。松浦シズエ氏の人生を知ってからはますます誇らしげに通学している。授業参観の道徳の時間に洋裁にかけた夢を学んだ。参観に来ていた母親に後から、モード界では有名な工場だということを知って驚いた。私の母はパリで11年程、モード界で仕事をしていた。パリで出会った日本の商社の方に母が山鹿出身だと言うと「ラ・モードがありますね?」と必ず聞かれていたらしい。細やかで丁寧な手仕事を請け負う工場はもう日本には少ない。世界で活躍する日本のデザイナーの高級コレクションラインをラ・モードの工場生産されていると知り、さらに驚いた。もっと驚いたのは私の母がデザインしている洋服の製造を最近の工場が担っているということだ。日常から非日常になってまた身近な存在になったこの工場に驚きの連続である。松浦シズエ氏から親子代々に引き継がれているこの工場。松浦シズエ氏の歴史を知ってすっかり彼女のファンになってしまった。熊本から東京へ、女性一人で山鹿地域のために、女性のためにと先を見越した考えが私に大きな影響を与えた。彼女の歩んできた人生を知り、考えたことがある。一つは自分の好きなことを仕事にしたいという事である。何が向いているのか好きなのかまだ正直分からないのだが、好きと心から思えることに出会ったら、きっと頑張れるに違いない。周囲から反対されても挑戦したいという事である。

次にどんなに周りからすごいと言われる能力があっても努力が必要だと言う事だ。また能力がなくても努力をするから力が開花するかもしれないということである。一度きりの私の人生。私の未来は自分で決めて自分で描きたい。絶対に後悔だけはしたくない。苦勞もあると思うが、こんな身近に素敵の方がいると想像するだけで、何にでもチャレンジしていきたい。私なら出来ると思うようになった。